

一般質問

市のさまざまな施策や課題等について、議員が自身の提案も含めて市の考えを聞くのが一般質問。6月定例会で出された「73」の質問から、厳選した内容をダイジェストで紹介します。

子育て・住環境の充実	シティプロモーション	p.12
給食費の完全無償化	ふるさと納税	p.9
能美丘陵地の開発計画	行財政改革	
安全安心のまちづくり	高齢者 DX	p.10
公害	災害対策	
熱中症対策	鍋谷川流域	p.10
教育力の向上	その他	
学校トイレ	新副市長就任	p.7・p.8・p.11
学校部活動の地域移行		p.11

14名が登壇

詳しい内容は
こちらから

YouTube 会議録



※6月定例会の会議録は
9月上旬に公開予定です

本紙掲載以外の質問については、各議員のページに設置しているQRコードからご覧いただけます。

新副市長の所信を問う

答弁
県で培った経験等を
行政運営に生かす

Q 副市長として、本市の行政運営を円滑に、そして、安定させ、また発展させていく上での副市長の思いを問う

A まず、井出市長の市政運営に対する思いや考えを理解し、市長が掲げる市民ファースト、現地現場主義を実践するため、多くの市民の声を聞き、能美市の現状や課題についてしっかりと勉強していきたいと考えている。

また、職員とも積極的に意見を交わしながら、各部署間の調整役や市長と職員の橋渡し役となるとともに、県職員として働く中で培ってきた知識や経験、人脈を最大限に活用し、能美市と石川県とのパイプ役としての役割も果たすなど、安定した行政運営が円滑に進むよう取り組

んでいく。

こうしたことを通じて、市民が「したいこと、能美市だったら叶うかも」のキャッチコピーを実感され、能美市に住んでよかったと感じていただけるよう精いっぱい努める。



杉田 隆一 議員
能美保守の会



▲したいことが叶うまちづくりを

新副市長の 就任抱負を問う

答 弁
能美市のさらなる
発展に貢献したい

みなみやま しゅういち
南山修一 議員
能美保守の会



Q
石川県職員から能美市副市長に就任された使命を問う

A
副市長として市民の声を聞き、県職員として培ってきた知識や経験を生かしながら、市長の市政運営を補佐するとともに職員と協力して発展と安定した行政運営に努めたい。

Q
加賀立国・能美誕生1200年の節目の年に就任された、副市長の能美市政に対する意気込みを問う

A
今年度は加賀立国・能美誕生1200年やいしかわ百万石文化祭2023の開催、来春の北陸新幹線県内全線開業と、能美市の魅力を発信し、知名度を向上させ、交流人口の拡大につなげることが、市をさ



▲交流人口拡大を受け入れる能美根上駅



らなる発展に導く、千載一遇のチャンスであると考えている。井出市長が掲げる市民ファースト、現地現場主義を私も実践し、全ての施策が移住・定住につながるよう取り組み、能美市のさらなる発展に貢献したい。

学校トイレの快適な 環境整備を進めよ

答 弁
スピード感を持って
順次改修を進めていく

やました つよし
山下毅 議員
能美保守の会



Q
市内の小中学校における洋式トイレ設置率の格差について、原因を問う

A
格差の原因は、学校施設長寿命化計画を進めてきたことにより起きたもので、現在、それを是正すべく取り組んでいる。

Q
学校のトイレを快適にするため、トイレ整備に係るアンケート調査を実施せよ

A
学校施設を改修する際には、学校長を通じ教職員やPTAなどからの意見や要望を取り入れていることから、アンケート調査は考えていない。

Q
トイレの改修目標を掲げ、整備計画を策定せよ

A
安心で快適に過ごせる学校環境づくりを推進するために、トイレ洋式化率の向上と学校間の格差解消を目的とした整備計画の必要性を感じていることから、中長期計画に盛り込み、スピード感を持って順次改修を進めていきたい。



▲浜小学校のトイレ状況

こんな
質問も

・農業DXの普及
推進



教育力の向上について方針を問う

答弁
魅力ある学校づくりを進める

いまは ことし
今尾晃司 議員
能美保守の会



Q 能美市は教育力をどのように定義し、現在の課題をどのように捉えているのか

A 学校教育における教育力の定義は、学校・家庭・地域・社会の教育力と教育資源を統合して教育力としている。課題は、学力向上、いじめ・不登校問題への適切な対応、特別支援教育の充実がある。家庭の経済力の差が広がり、子育てに関する悩みも増加している。学校部活動の地域クラブへの移行も喫緊の課題であり、令和5年度の当初予算に課題解決のための施策や事業を計上した。

Q 教育力の向上の方針は

A 方針は、魅力ある学校づくり、家庭教育力の向上、

魅力ある地域や社会の活用である。教育行政をつかさどる教育委員会は、学校、家庭、地域、社会の教育力の向上を具体的な施策や事業、財政面で支援し、学校・家庭・地域・社会の立場で、支援できることは何かを考えることを大切にしている。



▲全ての子どもたちに魅力ある学校教育を

こんな質問も

- ・辰口中央と和気地域の治水対策
- ・帯状疱疹ワクチン



ふるさと納税の収支は

答弁
令和3年度は収入が上回っている

うの しゅうぞう
卯野修三 議員
能美保守の会



Q 能美市は、令和3年のふるさと納税による寄附金収入が7845万円で、令和4年の住民税減収額を引くと赤字と地元紙に記載されていたが、広告費、送料、事務費を差し引くと収支はどうなるのか

A ふるさと納税の寄附額から寄附金控除を受けられた個人市民税控除額、返礼品・広報・決済等に係る必要経費を差し引くとマイナス2422万円となるが、普通交付税の交付団体であれば減収分が補われることになるため、収支は収入が上回っている。

Q これからの能美市のふるさと納税の方向性についての認識を問う

A 今後ますますふるさと納税制度の利用者が増加すると見込まれる中で、能美市へのふるさと納税を増やすことは重要と考える。より多くの方が能美市の応援者となって寄附していただけるようシティブロモーションを強化し、寄附額の増加を図っていく。



▲能美市のふるさと納税返礼品の一つ

こんな質問も

- ・市外の高校への通学費補助
- ・がんの助成金



鍋谷川流域の安全・安心対策を

答弁
治水協定・特定都市
河川の指定へ

田中 大佐久 議員
能美保守の会



Q 鍋谷川において今後予定されている治水対策事業とそのスケジュールを問う

A 鍋谷川の治水対策については、国と県で区間を分けて、おおむね10か年で緊急的に対策が進められることとなっている。

Q 市内全域における治水対策を問う

A 本市では、小松市・手取川宮竹用水土地改良区と能美市の間で治水協力協定を締結し、鍋谷川へ流入する雨水を軽減させたところである。

梯川の特定都市河川への指定については、その支川である鍋谷川の治水対策事業を加速させる有効な手段になることから、地域に理解をいただきながら、

小松市とともに検討を進めることとした。

引き続き、市民の安全・安心と生命と財産を浸水被害から守るため、国・県・関係市と緊密に連携を図り、市内全域の浸水対策にスピード感を持ってしっかりと取り組んでいく。



▲流域治水に全力で取り組まれることを期待

こんな質問も

・新教育長の所信



高齢者DX普及方策について問う

答弁
サポート体制等3つの
視点で推進する

中村 純子 議員
能美保守の会



Q デジタル化普及には何が必要と考えるか

A 全ての市民がデジタルを使えるまちづくりを進めるには、デジタルは自分の生活に必要な、または使い方が分からないという人たちが、デジタルは便利との意識に変容するよう働きかけていくことが重要と捉えている。

Q 高齢者のデジタル化普及方策を問う

A 対面によるアナログ手法を活用し、主に次の3つの視点で推進していく。

【①広報・周知の充実】高齢者団体等へ出前講座等を活用し、理解の促進に努める。

【②デジタル機器の使い方指導】今年度新たに公式LINEをは

じめとする本市独自のデジタルサービスの活用を学ぶ、スマホ教室を開催する。

【③サポート体制づくり】デジタルサービスの利用方法や、相談等のサポートを行うデジタル推進委員を任命する。

能美市
LINE 公式アカウント
友だち募集中!



友だち登録は
こちらから

▲登録されましたか～能美市の情報が毎日配信

こんな質問も

・老人クラブ活動
・シルバー人材
・高齢者施策



学校部活動の地域移行に方針示せ

答弁
学校単位部活動を地域単位クラブへ

Q 県内でも先駆的に推進している地域移行の取り組みを問う

A 令和3年度に国の補助採択を受け、モデル自治体として3競技で地域移行に取り組み、令和4年度は新たに3競技を学校部活動の地域移行実践研究の競技として加えたほか、指導者の質の確保や報酬等の支援等を実施している。

Q 合同部活動によるスポーツや文化活動機会の充実を図れ

A 部活動の特性に応じて、合理的で効率的な地域合同部活動も推進し、機会の充実に努める。



荒井 昌宏
あらい まさひろ
 議員
 能美保守の会

Q 平日と休日の一貫指導のための体制など環境整備の対策を問う

A 能美市部活動あり方検討委員会を立ち上げ、部活動の現状と課題を検証し、人形成の機会や継続性、生徒・指導者が安全・安心して活動できる環境づくりに取り組む。



▲充実した部活動ができるような環境づくりを

こんな質問も
 ・能美市の災害対応力
 YouTube

新任副市長の意気込みを問う

答弁
シグナルキャッチができる存在に

Q 出向人事への思いや感想を聞く

A 馳知事のブログには気恥ずかしさを感じる。新聞報道のタイミングで年度途中の内示を受けたこと大変驚いた。

能美市で働ける機会にしっかりと気を引き締め、ふるさとの発展に精いっぱい頑張る気持ちを抱いた。

Q 副市長の行政手腕や意気込みを問う

A 観光物産協会の会長や、地域共生社会推進事業の横系プロジェクトチーム長として、地域産業の活性化、市民の福祉の増進に取り組んでいく。

Q 地方行政での現場の活躍と抱負を聞く



澤田 貞
さわた ただし
 議員
 清風

A 地方行政の発展には市長の熱意を理解し、職員がその能力を存分に発揮してこそ達成できる。若手職員には絶えず目を配り、声をかけ、悩みや不調な状態がキャッチできる存在になりたい。また、管理職とも言葉を交わし、思いを通じ合わせ、共に進んでいきたい。



▲副市長室のドアは常にオープン

こんな質問も
 ・大雨対策
 ・高齢運転者対応
 YouTube

給食費の完全無償化 を実施せよ

答弁
今年度2学期から
段階的に実施

山本 悟
議員
能美保守の会



Q 2030年代に入ると日本の若年人口は現在の倍の速さで減少し、能美市でも少子化が加速的に進むことが予想され、今のうちに様々な施策を実施する必要があると考える。地域間競争を勝ち抜くためにも、給食費の完全無償化を「少子化対策」「移住定住の促進」「教育の機会均等の確保」の3つの視点から実施すべきと考えるが、どのようなビジョンで取り組んでいくのかを問う

A 国が異次元の少子化対策を掲げているなか、能美市としてさらに一歩踏み込んだ少子化対策を進める必要があると考え、学校給食費の無償化を段階的に実施することとした。まず家計負担が大きい中学生を持つ家庭を対象に2学期から

無償化を実施し、3学期からは小学生の家庭も対象に拡充していく。あわせて、特別支援学校など市外の学校に通う小中学生も対象とする。来年度以降も継続して実施するためにも、適切な財源確保と行財政改革に努める。



▲財源確保に努め、来年度以降も無償化の継続を

こんな質問も

- ・西川の治水対策
- ・治水協力協定
- ・浸水対策

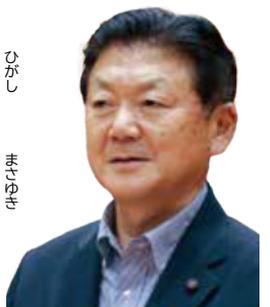
YouTube



シティプロモーション 事業の計画は

答弁
南加賀3市とさらなる
連携誘客強化を図る

東 正幸
議員
能美保守の会



Q 来春の北陸新幹線県内全線開業を見据えて立ち上げた「シティプロモーション事業」の現在までの状況と今年度の計画を問う

A 小松市との連携では、九谷焼を核とした誘客策をテーマにシンポジウムの開催や、PR動画「開業まつのみ唱歌」の制作、首都圏、関西圏でのイベントを通し、魅力を全国に発信している。

南加賀3市との連携では、東京のJR品川駅構内において、温泉やご当地の食、九谷焼をメインにPRを行った。今年度は、SNSでの情報発信の増加が期待できるサンリオのキャラクター「シナモロール」の活用や、南加賀3市で観光誘客に向けたPRを協働で進める

ための協議を進めている。

Q 北陸新幹線延伸に向けた観光交通インフラ対策について問う

A 並行在来線へのスムーズな乗換えができるよう関係機関に働きかける。



▲能美市応援大使「シナモロール」

こんな質問も

- ・金沢市との連携
- ・観光客の受け入れ環境整備

YouTube



騒音・振動・悪臭 への対策をとれ

答弁
公害事案として
対応する

近藤 啓子
議員
日本共産党



Q 準工業地帯の住宅地での騒音・振動・悪臭被害を公害として認識すべきでないか

A 公害事案として、公害防止条例、騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法等に基づき、対応を実施している。

Q 具体的にどのような対応をしているのか

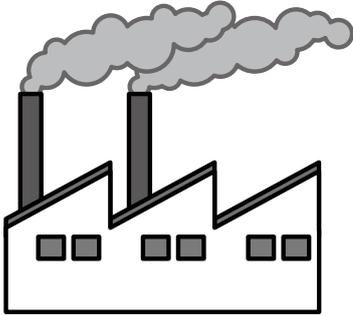
A 昨年末に現地で騒音・振動計測を行い、今後の改善等について協議をしている。また、調査結果の効果を図るために、今年5月末にも再度調査をしており、事業者の改善終了後7月にも再度、計測を行っていききたいと考えている。

Q 5月に入っても悪臭は変わらないと聞く。発生原因と対策を事業者に求めていくべきでないか

A 事業者は継続的に改善対策を継続して実施していると聞いている。必要に応じて、検査も実施していきたいと考えている。

こんな質問も

・帯状疱疹ワクチン助成



▲公害に対して早急な対応を



YouTube

能美丘陵地の 開発計画を伺う

答弁
道路網の構築を
併せて取り組む

北村 周士
議員
能美保守の会



Q (仮称)能美丘陵地開発用地の計画を示せ

A 本事業の計画については、現在策定中である。

Q 自然環境調査の内容、結果について公表するつもりはないのか

A 結果の公表は、このエリアに生息、生育する希少な動植物の存在が広く知られることを意味する。生息地の破壊や動植物の乱獲のリスクが高まることから、公表は行わないこととしている。

Q 市内ではアベサンショウウオ(絶滅危惧ⅠA類)の生息が報告されている。今回の調査で確認されたか

A 調査結果については公表しない。

Q いしかわサイエンスパークの整備を進めよ

A 当該地周辺の宅地再整備については東部地区振興会からの要望もあるため、県に伝えていく。



▲(仮称)能美丘陵地開発用地



YouTube

熱中症に関する 情報発信が重要では

答弁
**市担当部局が連携し
普及啓発している**

せんたい けんぞう
仙台謙三 議員
公明党



Q 熱中症対策マニュアルの活用、暑さ指数の認知度向上、行動変容につながる情報発信が重要である。市の取り組みを問う

A 熱中症予防行動の住民への浸透が不十分であり、理解や危機感を高める必要がある。市担当部局が連携し、普及啓発などに取り組んでいる。

Q クーリングシエーターやクールシェアが可能な施設整備と高齢者世帯などのエアコンの点検や整備の推進、エアコン利用を促進できる環境整備が必要である。電気代高騰の対応も含めて、特に低所得者層に対して適切な支援が必要と考えますが、市の見解を問う

A クールシェアスポットへの登録件数を増やし、公式LINEなどで周知していく。エアコンの点検や適切な使用を促すことも重要であり、普及啓発を行う。電気代高騰の対応は、国の新たな支援給付金を低所得世帯などへ支給する。



▲命を守るエアコンの活用を

こんな質問も

- ・宿泊割と飲食割
- ・線虫がん検診
- ・学校の災害対策

YouTube



地域共生社会を実現するためには 何が必要なのか？

教育福祉常任委員会

教育福祉常任委員会で、世代や分野を超えて、住民一人ひとりの暮らしを生きがい、地域を共に創っていく社会「地域共生社会」をテーマに、現在、調査研究を行っています。その中で、外国人や障がいのある方の思いや悩みを聴くため、行政視察を行いました。

令和5年5月9日、岩内CC館とJAIRSTで行っている外国人の日本語教室に参加しました。外国人からは「交通手段が不便」「地域とのつながりが薄い」「言葉の壁があり、相談事が思うようにできない」などの意見をお聴きしました。

令和5年5月20日には、障がいのある方などを雇用している福祉・就労施設の行善寺(白山市)

委員会レポート

を視察しました。「こちゃまぜ」をモットーに様々な個性を持った人たちが、分け隔てなく活動していました。

ギカイの視点

誰ひとり取り残さない社会の実現に向けて、議会も行政も、市民も企業もひとつになつた取り組みが求められている。



外国人との交流の様子